



## 人生120年時代のこれからを生きる

(株)ドウ・ワンソーイング 専務取締役 土井玲子



当社は法人改組して36期、あと4年で創業70周年を迎えるのを機に事業承継を考えている。ずっと仕事に追われながら振り返る余裕もなく子育てをしてきたので、いよいよ仕事のないその後の生き方を考えることになる。

夫婦それぞれの母親が介護施設に入所しているの、面会に行く暇になった自分の老後のことを切実に考えさせられる。

創業者である御姑さんに、今の会社の状況や、息子たちが入社して、それぞれが役割を持ち一生懸命働いていることを伝えると、目を輝かせて喜んでくれる。単調な毎日を、何の不自由もなく心配もなく暮らせることに感謝の言葉を口にされるが、自分以外のことでずっと忙しく働いてきてやっと今なのに、実は寂しい思いをさせていることに心が痛む。

自分の母親の場合は娘には遠慮なく本心が出るので、暇でしょうがないとか、あったこと嫌なこともいちいち事細かに説明してくれるので、帰る頃には気持ち重くなる。でも別れ際は気持ちを切り直して笑顔で、不自由はないから来なくてもいいと念を押される。

帰り道、私自身がこの立場だと介護施設で心穏やかに感謝して死ぬまで暮らすなんて有難い訳がないと思う、どうしよう。

「お金は残さず使い切るほうが良い」なんて意見もあったけれど、必要最低限のお金は貯めておかないと不安。最低限がどのくらいかは悩むところだ。いくらお金があっても、気持ちが満たされていないなら幸せだとは言えない。

体が元気でどこにでも一人で行けて、周りの人の役にも立てるときは良いが、自分のことが自分で出来ない介護の必要な状態になった時の話だ。一人の時間が当たり前になったその時に、誰かに何かして欲しいと思い、すぐにそれが叶わない事がつらいと感じたり、いつも傍に聞いてくれる人がいないと寂しかったりすると辛い。日頃から、特に子供や身近な知人、親戚とは出来るだけ時間を取っ

て、一緒に食事や旅行に行つて共に時間を過ごし、楽しい思い出をたくさん作っておくことも大事であろう。

そこで思いついたのが思い出名簿の作成だ。毎日順番に、色々な人との出会いとこれまでの人生を思い出し、感謝し、可能なら懐かしい人に手紙やメールを送る。声に出したら文章になり世界中といつでも自由に話せるので書くことが出来なくても、伝えることは出来そう。

毎日の有り余る時間に自分の大切な思い出を振り返ることができたら素晴らしい。

そうするには、これからも益々多くのことに興味を持ってチャレンジし、山ほどの楽しい思い出を作っておくことだ。スポーツや音楽もこれから始めるに躊躇することはない。疎遠になった友人にも連絡してみようかと心が弾む。

さあ、それでも今はそんな呑気なことを言うてはいれない。もうひと踏ん張り、予算売上目標達成、働き方改革に取り組み、事業を無事に承継することが先決だ。

本当は一生懸命働いているうちにポックリ突然死できるのが一番幸せ、なんて不謹慎なことを考える。

んー、でもちょっと待って。

人生100年、120年というこのご時世では、私はまだ折り返したところに過ぎない。やっと一人前の働き盛りと考えてもいいのだ。ただ後を若い人たちに早く譲って会社も活性化を図らねばならない。

なら生まれ変わったつもりでもう一回、もうひとつの人生を生きてみるか！そうだ！そのほうが楽しいに決まってる！！

思いつきの思い出名簿はそのうちに手を付けることにしよう。

さあ、何をはじめようかな。

わくわくするこの気持がたまらない。

確かに！後50年、60年？長生きしそうだ。